

## 令和5年度 病害虫防除技術情報 第5号

令和5年9月22日  
大分県農林水産研究指導センター  
農業研究部

### トマトキバガの発生に注意しましょう

トマトキバガは南アメリカ原産で、体長6mm前後の小さな蛾です。海外ではトマトなどのナス科作物やマメ科のインゲンマメを加害することが知られています。日本では令和3年10月に熊本県で、同年12月に宮崎県で、いずれもトマトの被害が確認されています。本県では令和4年3月16日に本種のフェロモントラップによる調査で雄成虫が確認されましたが、現在までトマトなど農作物の被害は確認されていません。本年度、本県ではフェロモントラップを9か所に設置し、4月から継続的に雄の誘殺数を調査しています。その結果、9月上中旬に本種の雄成虫が多数誘殺されており、施設栽培のトマトや家庭菜園で栽培されている露地のトマトなどの被害が心配されますので注意しましょう。疑わしい被害があった場合は、農業研究部病害虫対策チームまでご連絡をお願いします。

#### 1 発生状況

フェロモントラップ9か所におけるトマトキバガ雄の総誘殺数は、4月から7月までの4か月間の調査で17頭（前年：5頭）と少なかったが、8月の調査で54頭（前年：1頭）、9月では22日までの調査で160頭（前年：7頭）と急激に増加しており、前年と比較するとかなり多い。

#### 2 防除対策

- 1) トマトとミニトマトにおいて、トマトキバガに対する登録農薬は別添のとおりである。薬剤防除にあたっては、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、IRACコードが異なる薬剤のローテーション散布を行う。
- 2) 圃場内をよく見回り、見つけ次第捕殺する。
- 3) 被害葉や被害果は圃場内から持ち出すとともに、暖冬傾向により越冬する可能性もあることから野外に放置せずに速やかに適切に処分する。

#### 3 その他

トマトキバガ幼虫による被害葉は、ハモグリバエ幼虫による被害葉と似ているので、別添の「トマト葉におけるハモグリバエ幼虫とトマトキバガ幼虫の食害痕の違い」を参考にする。

なお、トマトとミニトマト以外の農作物にトマトキバガが発生した場合には登録農薬がないので、管轄の県振興局生産流通部に相談する。

#### 【連絡先】

大分県農林水産研究指導センター 農業研究部 病害虫対策チーム  
住所 豊後大野市三重町赤嶺 2328-8  
電話 0974-28-2078

トマトキバガ登録農薬（2023年9月21日現在）

作物名（登録有無）		IRAC コード	農薬名 （商品名）	一般名 （成分名）	使用方法	希釈倍数 使用量	使用時期	本剤の 使用回数
トマト	ミニトマト							
○	○	5	ダブルシューターSE	脂肪酸グリセリド・スピノサド水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	2回以内
○	○	5	ディアナSC	スピネトラム水和剤	散布	2500～5000倍	収穫前日まで	合計2回以内
○	○	5	ラディアントSC	スピネトラム水和剤	散布	2500～5000倍	収穫前日まで	
○	○	6	アフーム乳剤	エマメクチン安息香酸塩乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	5回以内
○	×	6	アグリメック	アバメクチン乳剤	散布	500～1000倍	収穫前日まで	3回以内
○	○	11A	エスマルクDF	BT水和剤	散布	1000倍	発生初期 但し、収穫前日まで	—
○	○	13	コテツフロアブル	クロルフェナピル水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	3回以内
○	×	22A	トルネードエースDF	インドキサカルブ水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	2回以内
○	○	22B	アクセルフロアブル	メタフルミゾン水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	3回以内
○	○	28	フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミド水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	2回以内
○	○	28	ベリマークSC	シアントラニプロール水和剤	灌注	400株当り25ml	育苗期後半～定植当日	合計1回以内
○	○	28	プリロツ粒剤	シアントラニプロール粒剤	株元散布	2g/株	育苗期後半～定植時	
○	○	28	プリロツ粒剤オメガ	シアントラニプロール粒剤	株元散布	2g/株	育苗期後半～定植時	
○	○	28	ベネビアOD	シアントラニプロール水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	3回以内
○	○	28	ヨーバルフロアブル	テトラニプロール水和剤	散布	2500倍	収穫前日まで	3回以内
○	○	30	グレーシア乳剤	フルキサメタミド乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	2回以内
○	○	UN	プレオフロアブル	ピリダリル水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	2回以内

## トマト葉におけるハモグリバエ幼虫とトマトキバガ幼虫の食害痕の違い

【図1：大分県農林水産研究指導センター農業研究部 原図】



図1 ハモグリバエによるトマトの被害葉（食入始めは食入痕が細い）

【図2：熊本県農業研究センター生産環境研究所 原図】



図2 トマトキバガによるトマトの被害葉（食入痕は細くなく食害が激しい）